

あいらの歴史と物語

連絡先：〒899-5421 鹿児島県始良市東餅田 498 始良市歴史民俗資料館 0995 (65) 1553

生涯学習講座（始良の歴史探訪）ガイド

竹之内 茂

始良市が誕生して10年が経過したことから、合併前の旧3町が引き継いできた「まちの歴史」を学ぶ機会として、今年は生涯学習講座「始良の歴史探訪」が開設されました。

開講式は蒲生公民館で行われ、応募者15名が参加しました。講座は毎月1回開催され、蒲生・加治木・始良の地域について2回ずつ講座が行われました。各講座について1回目は市教育委員会文化財係による講義で、地域の歴史に関する基礎知識を学びました。2回目は現地研修で、始良歴史ボランティア協会会員のガイドによる史跡巡りが実施されました。



講義風景

蒲生編

竹之内 茂



楠田神社

蒲生編の1回目は、7月に「わたしたちの町蒲生の歴史」と題して文化財係の職員による講義が蒲生公民館で行われました。2回目は、8

月に蒲生地域の現地研修を実施しました。コロナ対策のため、市の公用車3台に分乗して蒲生公民館をスタートしました。ボランティア協会の2名が同乗し、史跡のガイドを行いました。

漆うるし小学校前で下車し、漆の田の神、永仁五輪えいじんごりん塔・康永板碑こうえいたび、中村の玉石垣たまいしがきを徒歩で巡りました。その後車で移動し、約8,100年前にマグマ水蒸気爆発を起こした米丸よねまるマールではジオサイトと蒲生合戦（北村城跡・菱刈陣跡）、青色野馬おしきのうま牧跡の説明をしました。次に、久馬神社くまの石像、楠田神社くすだを巡り、蒲生の現地研修を終えました。受講生の皆様は、お盆前の猛暑のなか熱心に研修されました。

秋晴れに恵まれた令和4年10月14日、加治木地区で現地研修を行いました。^{むくはとじゅうぶんがくき} 棕鳩十文学記念館^{ねんかん}を出発点とし、^{くわしほこじんじや} 精矛神社・^{のうにんじ} 能仁寺墓地・黒川岬公園・森山家住宅を巡り、受講生に各所の歴史的な背景などについて説明しました。それぞれの特色を生かした説明ができたのではないかと思います。当日は、ボランティア協会の新調した帽子を初めて着用しました。

私は加治木島津家の^{ほだいじ} 菩提寺である能仁寺墓地の説明を担当し、^{はやま} 端山の^{はんにやじ} 般若寺跡にあった能仁寺は当時、寺地が少なかったため現在の地に移転したことや現在でも拡張の余地が少ないため、12代以降の当主は納骨堂に納められていることなどを説明しました。



精矛神社

ムーミン講座「歴史探訪・まち歩き」

白金酒造石蔵

黒木 竹幸

10月15日(土)に重富地区の史跡を巡るムーミン講座が開催され、始良歴史ボランティア協会がガイドを担当しました。ムーミン講座は市教育委員会と始良退職校長会が主催し、始良市の小学生を対象に色々な体験の場を提供する活動を行っています。

今回は小学生が71名で保護者を含め130余名の参加がありました。史跡巡りは2コースに分かれ、各5ヶ所の史跡をワークシートを使いながら自分たちの町探検として実施しました。

明治初期に作られた白金酒造の石蔵では、使われている加治木石は60万年前に海底火山から噴出した溶岩が固まったものだということや、石の表面に沢山ある小さな穴により蔵の内部は外気の影響を受けにくく、焼酎蔵の環境に適していることなど加治木石の特性について参加者は興味深く聞き入っていました。

このような体験を通して、子供たちが少しでも始良市の歴史に興味を持って欲しいと思いました。

12月9日に帖佐地区の稲荷神社周辺と山田の凱旋門周辺を案内しました。



山田の凱旋門

凱旋門周辺は江戸時代に地頭仮屋が置かれた集落の中心的場所です。山田の凱旋門は明治時代から約120年間、堂々と建っており、アーチ式の石橋技術を応用した国登録有形文化財の風格を感じてもらえたと思います。門の後方から階段を登った場所は、江戸時代に創建されたといわれる^{らいふくじ} 来福寺がありました。本尊として^{あみだによらいまつ} 阿弥陀如来が祀られていました。近くの墓地には僧侶の墓があることから寺院があったことがうかがえます。

さらに階段を登ると^{しょうこんしゃ} 招魂社石碑群があり、山田麓を一望できる場所を体感してもらえたと思います。



白金酒造の石蔵

研修視察 小林市の歴史研修

令和4年10月27日に小林市の歴史研修を実施しました。当日は小林市歴史ガイド協会のご協力をいただき有意義な研修となりました。研修個所は下記3カ所の他、伊東塚・小林城址・西郷どん城山帰還路・東二原地下式横穴墓群・新田場の田の神などを主に巡りました。

粥餅田古戦場跡

橋木 雅晴

元龜3年(1572)5月4日、九州の桶狭間といわれた木崎原の戦いで、伊東軍は粥餅田(小林市北西方)で島津軍の追撃を受けました。

島津義弘の「返せ、返せ」の呼びかけに敗走する伊東軍の中から柚木崎丹後守正家が引き返

し、義弘に一騎打ちを挑みました。槍の名人であった正家が必殺の一撃を繰り出した瞬間、義



粥餅田古戦場跡

弘の乗っていた馬が前膝を折り、槍はずれ討ち取ることはできませんでした。その後、正家は島津兵に取り囲まれ討死したといわれます。この戦いの後、島津家臣団の奥方たちが桶に満たした粥を持ってきてふるまい、戦勝を祝ったので「粥餅田」という地名が付けられました。また、近くの民家には正家の墓があり、今も大切に祀られています。

義弘の愛馬「膝跪驛」の愛称が生まれたのは、当時本拠地としていたえびの市ではなく小林市の粥餅田であったとは驚きでした。

東方大丸太鼓橋

迫村 あけみ

浜ノ瀬川にかかる東方大丸太鼓橋は、宮崎県内に現存する最古の石橋です。平成15年に県指定有形文化財になりました。全長31.5m、幅3m、高さ15mで鹿児島五石橋と同じ弘化4年(1847)に造られました。

かんがい用の水路橋で、昔は木造樋の水路であったため、大水のたびに補修が必要でした。そのため、石造の水路にすることで丈夫になり、新田開発が大いに進んだそうです。また、建造には薩摩藩の豪商が私財を投じたともいわれています。下の河原から見上げると、見事な石のアーチを望むことができます。



東方大丸太鼓橋

伊集院源次郎忠眞の供養塔

恒吉 一洋

慶長7年(1602)8月17日に初代薩摩藩主島津忠恒によって殺害された伊集院源次郎忠眞の供養塔です。

忠眞は父・伊集院忠棟(幸侃)が、主家乗取りの疑いで忠恒に殺されたため、庄内の乱を起こしましたが、徳川家康の仲介で和睦し再び島津氏の臣下となりま



伊集院忠眞の供養塔

した。慶長7年、忠恒が上洛する時に忠眞は同伴を命じられ、日向野尻で鹿狩りの最中に殺害されました。後年、忠眞の無念を思い、この場所に供養塔が建立されました。

なお、忠眞の墓は加治木町木田にあります。

特別展・企画展を実施

竹之下 洲一

始良市歴史民俗資料館では、NHK 大河ドラマ「鎌倉殿の13人」に因み、秋季特別展「鎌倉時代の始良」が開催されました。

加治木氏や蒲生氏などの在地領主と鎌倉幕府との関係を示す文書や系図、平山氏関係資料、始良市内に残る鎌倉時代の史跡、さらに中世の遺跡の出土品など 51 点の展示品が紹介されました。



また、同時期に加治木郷土館では、企画展「始良市の寺院と仏像—信仰のかたち—」が開催されました。

郷土館が所蔵する仏像や加治木町木田の牟礼前の小堂に祀られている薬師如来像など 30 点余りの展示品や史跡が紹介されました。廃仏毀釈が徹底されたわりには、加治木には仏教に関するものが多く残っていることが感じられました。

令和4年度「ボランティアガイド養成講座」

宮内 伸一



始良歴史ボランティアガイドを養成するために「ボランティアガイド養成講座」が 10 月 1 日から 3 か月間、全 8 回にわたり、6 名の講座生を迎えて開催されました。古代から近世までの始良市の歴史や文化財、民俗芸能や神社・寺院跡など、毎回 3 時間、始良の歴史がたっぷり詰まった講座内容でした。

前回までは 6 か月間の講座でしたが、コロナ禍もあり、今回は 3 か月間に短縮した中にたくさんの内容を詰め込んだ分、受講生の方々は大変だったと思いますが、毎回熱心に講座に取り組みました。

受講生の皆さんの感想から

- ・ これまで始良市に住みながら、市の文化財・史跡などにほとんどふれあうことがありませんでした。もともと歴史に興味があったので、今回の講座で始良市の歴史・史跡などを深く学習でき、意義深い時間を過ごすことができました。
- ・ とても楽しくて有意義な時間でした。毎回新しいことの発見の連続で勉強になりました。
- ・ 始良市の成り立ち、歴史を初めて学び、改めて周囲のものや人に思いを巡らしました。いい所に生まれ、育ち、終わりを迎えるのだとうれしく思いました。

受講生の 6 名の皆さんが、今回の講座で始良の歴史にさらに興味を持ち、これから歴史ボランティアガイドとして、楽しくともに活動して下さることを願っています。

編集後記

始良歴史ボランティア協会では、令和5年度から新メンバーが加わり、ガイドの層も厚くなります。史跡案内のご希望がありましたらご連絡をお願いいたします。そのために早期のコロナ収束を願う次第です。